

論文の内容の要旨

論文題名

Identification of factors associated with the efficacy of atomoxetine in adult attention-deficit/hyperactivity disorder.

(成人注意欠如・多動症 (ADHD) に対するアトモキセチンの有効性関連因子の探索)

掲載雑誌名

Neuropsychopharmacology Reports 2022 年 掲載予定

医学研究科 病理系 薬理学 (臨床薬理学分野) 専攻 博士課程 永井 努

内容要旨

【背景・目的】アトモキセチン (ATX) は非中枢性刺激薬であり、成人の注意欠如/多動性障害 (ADHD) の標準的治療薬である。ATX の長期有効性 (6 か月) は約 40% である。有効性には個体差が大きく、患者固有の要因が関係していると考えられるが、詳細な報告はない。本研究では ATX の有効性に関連する因子を明らかにすることを目的に、後ろ向きコホート研究を行った。

【方法】本研究では ATX を初回導入した 18 歳以上の ADHD 患者 147 名を対象とした。アウトカムは治療成功 (6 か月以上治療が維持され、症状の改善を認める) とした。症状の評価は、症状の改善度に関する専門医の評価から総合的に判断した。

【結果】対象患者の 103 名 (70.1%) がアウトカムに達成した。ロジスティック回帰分析により、「ATX の最大投与量」と「ギャンブル嗜好」が有効性に関連する因子として同定された ($p < 0.05$)。

【考察】ATX の漸増過程における最大投与量が多いことが、高い有効性に寄与することが示唆された。これは、過去の報告を裏付ける結果であった。ギャンブル嗜好は ADHD の中核症状の衝動性の存在を示している可能性が考えられた。ATX の処方の際に、ギャンブル嗜好の有無を指標として患者個々への適応を判断することで、成人 ADHD の薬物療法の個別化を促進し得ると考えられる。